特別
14
696
239

239
イ4特
696
239

内閣文庫

閉門

・逼塞　・四七ノ
・乙科　・蟄居

・元禄五申正月十六日荒川拾ヶ供主ノ馬ニ乗リ麻小路ニテ
押ノ者殺ス　乙科　二百文

・同二月　日　浅草ニテ　ニテ　闘ツ

・同六月十二日　山村九郎　闘ツ　ニテ

・同七戌二月　日　ニ　婦ヲ刺ス　月分ヘ　ケ　ル不
　在ニヨリ

・同四月十八日　御賀　伺　清侯ニ　歩　昨日　逼塞　翌ヘ
　清侯　ニ　入　ラ　免　出

・同六月十三日代々ヶ瀬川ヶ関ヶ
十二月四日より
・同七月廿九日酒屋物部右衛門尉
・同十一月十六日大雨十日ヶ間逼塞ヶ
取敷と化国(きこ)云まし九ヶ所ヶ逼塞ヶ
・同月 陳侯三郎早川金ヶ関ヶ 村切と呼レシ分
・同八月 五月ハ稲ヶ出ヶ穂ヶ出ヶ上逼塞
五ヶ所板門脇ノ下ニ蛛ノ絲アルヘシ
・同八月十四日十八日荒井ヶ関ヶ 北逼塞
・同九子五月八日大村野ヶ川村ヶ関ヶ 去戌九月中旬
逼塞
・同十丑九月朔日太田ヶ関ヶ 四年ヶ三度ヶ不芸ニ
逼塞 翌年四月廿一日ハ
・同十二卯二月廿六日清水ヶ逼塞一季ノ巳文ヲ失ス
・寛永元甲子年山内氏ノ十八人木村中ヶ逼塞 伊勢し
ヶ月遠島 門伝 西谷羽ト 拾帷子ヲ着レケルヲ食物
永長 門弟
・元禄十八年六月廿十八日分里村小ヶ口ノ三ヶ関ヶ

以藤左衛門ヲ改ル

●同壬八月十四日　山崎ヲ指下シ来用ツ　以米ヲ買之

岩村ノ郡代ヲ以テ　分

●寛永八年六月十三日　大雨洪水ニ逼塞

津浪ハ伝ヘ来ル所ニ辟ル

●元禄十六癸未三月　大小　建作ヲ以テ茶入料

日分　以米ヲ買之用之

●同六月十八日　物ヲ以テ買用ツ

五月子猶分　逼塞　分

●同八月十八日　辰巳長ヲ以用ツ　才繁ニ茶ニ分

●貞享三丙寅三月　中村ヲ以テ拾貫ヲ以テ買用ツ

以下帝ヲ以ハ出ル

●同八月　養林寺逼塞　寛文年ニ

●同十月八日　嘉門ヲ以テ洛法ヲ以テ用ツ

高貴大切ニ　分ヲ以テ矢ヲ

●元禄四未二月十三日　小山市ヲ門前ニ馬ヲ走ラスルニ馬血タリ

万松寺ヲ以テ帝ヲ以テ牧箱ヲ解キ者押之評定ヲ入ル

市ヲ以テ月逼塞

●同十三日四月五十八日　蜂屋ヲ以テ江戸ニテ用ツ

桂昌院松ヲ以テ進物ヲ捧ケトテ五十人ニ持セヌニヨリ

集人西松山ニ孫太郎ト共ニ寛文九年酉九月伊
勢ヘ発ス局ニ着ス局ニテ勢田松ヲ見ル外ハ
勢田ヨリ松ニ乗ルヲ以テ着ス局ノ松阪孫太郎ハ拾分ノ
才ハ大抵独仕者ト思ヒ松ヲヤルヲ強力者一人飛入
松ニ乗ヲ門戸ヲ閉ス孫太郎ハ槍ヲ取テ撃之骨碎
テ死ス孫太郎力強シ能テ集人西ヘ達シ逼塞シ金ヲ待ツ
事ヲ今モ尾列ノ士ト共ニ松阪ヲ死ヲ求リ孫太郎別
條

寛文元辛丑二月十七日 岐阜山ニテ五十人阿山本平左衛
(万治三子年)

狩仕ル間ツ 山ヲ上ル世ヲ分ル人列平阿ニ居ル者ハ
加藤宗右衛門 (焦山) 能言ヲ信列平阿シ湯ヲ宗右衛門 (聞カ) 兄何
某宗右ニ途ニテ不幸ヲ手トヤランヲ死ナルトテ胴ヲタメセラレ
立退 二男家督

五十人ノ仕方ハ寛文二ヲ紀列ノ阿使ニ行ニ左ニ
何仕ト問ニ仕方ヲ乞ル騎馬仕ト乞ル係ニ大事松ヲ名付
ハ山ノ道張十枚ニ味噌二ヲ下 長屋門
陽易ノ外 紀伊ヘ入ニテ陽ヲ乞ハ非也

太ノ方ハ加賀ニ入ル即ち[illegible]ガ[illegible]ル[illegible]）即ち旅ハ太
山ニテ片山氏ニ加賀ニ養子ニ来ル）

・[illegible]二才　山中[illegible]ニ用ツ　入庵院ノ事

・日　[illegible]ニ用ツ

・日　[illegible]ニ用ツ

・天和元辛酉　[illegible]ニ用ツ　[illegible]

・天和元戊戌　[illegible]ニ用ツ　[illegible]

・天和元戊戌　大門　[illegible]ニ用ツ　[illegible]

・天和元戊戌[illegible]　[illegible]　石川勝[illegible]ニ用ツ

・[illegible]三才　[illegible]ニ用ツ　[illegible]

・元禄四未　[illegible]ニ用ツ

・[illegible]元辰八月二日　恭公江戸ノ[illegible]ニテ四位生トナリ[illegible]町
ニテ[illegible]ヲ[illegible]行　[illegible]生ニ付ハ盛也九月廿一日ニ[illegible]
町[illegible]ヲ[illegible]ヲ[illegible]ニ[illegible]ノ時[illegible]水[illegible]ヲ[illegible]

代

[illegible]平家物語序文ニ初ル所ノ月分を心
得ル事 水地若女等一列ニ[illegible]ヲ呼ブ和文
物モ熟ス解要ニ[illegible]ハガシノ一列ニ[illegible]同つ作分
忠能ハ行事ヒ[illegible]自ら逼塞トキ、
平梅ニ平家物語序文已年前春行ニ作分然レハ踊ヲ
見シハ 恭公門延生ノ翌歳 己ノ九月ニヤ

• 寛永三丁 同つ 火ニテ及大火故也

• 寛文元丑 月人 出仕等同つ 火事ニテ長立退

• 宝永三戌八月五十人月分当面平家同つ
江ノ西番ニ 作ル和乃ひ四編ヲ 答ヒ、

• 寛文九酉 虎懐松四郎文ハ大切ノ事ニ上ハ養
子ヒ[illegible]依延滞ニ成ニ付 [illegible] 同つ

• 加賀治記ノ 寛文亥同門 松平加賀ノ侍家ヒ[illegible]
格同ニ行 [illegible]ノ子トテ理運ニ[illegible]
江ノ[illegible]ヲ捨テ[illegible]ノ体自能院ニ行ノ七リ逼塞高比ニテモ日金ノ火事ニ上ル同つ

• 同年金文 格同ノ[illegible] 口上ヒ[illegible]
[illegible]返ス程ニ

下ノ保年の

同ノ田ヲイ中ニ命ー務耕スニメテ年ヒ徳合ヒ寛文
己卯四辰ノ比ヲ大旱ニテ味境安平志水等ノ田畑悉旱魃
味境安平ノ用水ノ久メニ和ニ井ノ松ルニ在ル人ハ深井ヲ
掘テ水ヲカケルトモ、大旱ニ
此年ニ水ヲ切ヒテ在リ村ヒ角水ヲ取リ已ニカ仏ラシムル
田ニカケ久リノ〻信外ノ田旱魃ス事甚シ辰巳 翼
拾年ヲ経ニ水ヲ川ヒ石堰ヒテ辰ヒ味ノ上ヲ人困ム

元禄十六未五月 饑田大変司 饑民
同三年 成瀬ヲ饑民 家門百五一家断絶

正徳二辰二月ヲ以テ水ヲ角ヲ文力ニヲ巳逼塞
七年十一月ヲ以テ水ヲ上ヲ石堰

同元年 仲春 仲夏ヲ下ヲ困ム翌辰二月ニ至力
ニヲ巳
同四年八月六日ニ英ヲ比遠山法ヲ 公ヘ安年ニテ
逼塞
同五未八月九日 男鹿ノ右ヲ屋ヲ井上文ヲ 清ヲ家ヲ
山海ヲ高ヲ揚リ面ヘ入リ翌申四月ヲ七ヲ閉門 八月八日ニ免

〇山統

山岸ぎ任ニ山院深略セし山統ケ号し山岸ニ含之と

大伴町下ニ大井小太郎とて強弓くらしき士ありし諸士是を
行テ習ひ寛文七年未 箭末左七 イ左若 と云若 又ハ竹代 山岸ヨ曰
業ニ小太郎取くまり様ニ勝負居しが是を届く取り又来
ランとテ立出行きまり強とて八此節ニ石ノ利限ニ大伴所ニ
居懸ニ初テ不死役人何ぞノスル事と同町人ニ一念
ニ之恨之者なし但是ハ大沢ニ而 山岸記の味ト有 箭末左七と云士ヲ
見掛て四目いてるれと知れ乃ち之ハ叱せらる覚あやとて仍て
左七山統ら入山統ケし云節小太郎事ニ居合 筆学ハ弟の

用人ハ伊藤なとゝ市村なとゝ申ス左七的事ノ別
限ヲ掟ニ中もなく又ハ菊ケ松の変をタランとも不届
其科ヲ云かけて不覚ニ思ひ目をトラテ的ヲ取文ニテ又是ルと
いかにもとゝハ老中ヘ上なとニ左七切捨てしむと言上ニ
なきなり　大公左七ヶ不伏ニ不審ニ思ヒ甲しかハ
梶ニ加人江戸ノニテ此ノ要文ニ掛く右ノ町人切ルとも白状
依務ニ而之事ハといへと左七ヶ也　大公御自称とこ
左七ハ既ニ如前ニ松並改果支ワ右尾ニ於テ可ハ相ワ
此皆文ニモ八右衛門しの丸れとて既ヶ重ケり処ルと左七
ハ既ニ切ハ金様とさて　或ハ金様のことか左七　郡内関本既ヶ相モウ金策とこと

右く思ヲ相出ス　町ニ此郎ノ文なと在人笑識ス左七
ハ然ノ程相自既無之ルとをてもしとのニ仕えルとて恨ム
無ケの而間なく思ひ立退とし左七すへちとの事なしハ
な来し芝もちと無事なと留人吟味之者と称しケルニし
なこゝ人とも笑辱しム無ケハモノ枝ニ思ヒケル所ニ才北村
又右ヘ門特変ノ事ニテ退飯ノ弟等め西目ヲ雪シと立波ヲ
此立退たる又なし
三郎町人ハさきい五兵衛とし二味方ととりしなし　依頼ニテ
守ほ木八右衛門不振替ヲとし手形メテル五兵衛モヲ会二へ
僧不憎テ切とさ二ハ　僧薫江戸ニ至テ名古屋ノ守ほ木ヵ
八右ヘ門相模ヲ仕ラトシテ切之

[illegible]ハ物知シタル七ノ翁ニヤリ案ハ[illegible]何トヤラ屋
[illegible]ケルヨリアラハルトテ 此老翁ニテ町人捨ク捨ルストテ

[illegible]七ノ金猫ノ目四色ノ[illegible]ハ山伏ノ[illegible]師ニ
[illegible]ノ山伏モ不快シ 拾ハ又ハ山伏ノ[illegible]師ニ
[illegible]ノ陳言ニハ金猫ニハ[illegible]
計ノ詞ニテ問詰リシ[illegible]ハ白[illegible]
金猫[illegible]ハ山伏モ憤リ
[illegible]七ト[illegible]六七年ヨリアリテ
[illegible]
山伏[illegible]ハ[illegible]

[illegible]ノ[illegible]ハ月之ト父ハ十[illegible]

成[illegible]カ強ニ所[illegible]棒ヲ突[illegible]大ナル赤籠ヲ後ニ負
阿[illegible]ニテ号樵山其子[illegible]（二十石四斗ニ升） 延宝五巳 所使ニ[illegible]
行本村ノ門ヲ夜ニ入通ラントス 面已ニ[illegible]ハ改ル法ニ然ニ[illegible]
言ヲ不尽ニテ甚強義ニ大言ニ通ルヤ[illegible]
九[illegible] [illegible]ノ[illegible]老中大石寺ヲ蕃ニ向テ[illegible]
取返ニ玉ハナドヽ[illegible] [illegible]（巳二月十三ヲ）集人[illegible]ノ[illegible]大山ニ居ル[illegible]
四己年病死スル月付[illegible]行ル大山ヘ到テ検視之
樵山阿[illegible]ノ[illegible]ニ[illegible]ハ[illegible]ヘ立退年浪ニ参ニ[illegible]ニテ死ス
[illegible]ノ[illegible]ノ書付ノ月付ノヤニテ[illegible]体ノ年ニ十九ニ[illegible]セラル

・元禄元辰六月並山敬麦自殺損じ候事あらんへハ死ケ
・宝永三戌二月十七日 切腹仕候ハ釈教ハ仕候ハ文え
候ハ死ニ申ケシ 急度ニ死ニハ非ス石行死ニ付心ヲ可附也
・元禄十四巳八月町出道阿弥父孝宣ニ不孝ニ付前田宋世ハ
死ケ
・同六月 津侯奥書代枝彰候ハ十二月十三日上名ニ見
申ニ付死ケ
・美濃伯爵兄也麦 彰考様ハ人倫ニ住スト
書ハ上様ハ廿三ニテ山崎七郎と申者 内往弥人倫ノ
法ヲ絶スト而死ハ五人枝切ニ下ハ伯爵と芦仮屋ハ
死ニテ伯爵ハ廿三ニ成ル 世麦男子三人女子一人ヲ生リ二男ハ
大光寺ニ居ス三至ハ 内往弥ハ 大光寺モ
伯爵ヲ切ニ家敷三至ヲ切ル 拂ニテ重テ来ラハ可切捨ト
ヲ 嫡林ハ五十人死シ 内往弥ハ 建仲寺前ニ家
切ル ハ 伯爵ハ内往不在ニ 母死ニハ放逐ナリ
三至潛ニ居ニ付テ共ニ 内往弥ハ貧窮ニ成リ彰考様ハ
仮金ニコマリ 万代茶屋ハ九三退ハ退ク書ニ退ク陸ニ寛文
七年未十二月五日也 伯爵ハ余ニ尋ニム 大山紀伯
伯爵 枝号可休 芦仮屋ハ 世麦殺ス 此女人ハ伯爵ハ 野口
彰考様ハ 翌ヲ翌ニ出ツ 翌申春伯爵ハ 京大坂ニ出奈良紀伊

国等捜求といへとも不知し 松平出雲守も如柏ニ存寄より二
不入ハ〻被成しとて三月晦日被成ル此時出雲守三男久之丞 雲侯
ハ乗物乗リ候ヲ林分ヶ解死人として 作十佐太郎と山崎七左衛門へ
ハ仰付られ 林分引分ニ而其篭へも不入ニテ佐太郎ハ町ニ居ニ〆
寛文十一亥三月十七日夜逐電ス此時佐太郎ハ出雲守へ行
死 七左衛門ハ毛利筑前守へ御預ヶ宿ニ逼塞ス 芦沢代左衛門
ハ一家也 候号自謀 同年迎曲彦兵衛 御旗本年ル ハ目見可仕十 右三人佐太郎
縁ナリ 上坂小左衛門 蔵人 七左衛門世忰ノ候十 此四人ニ名主可為出
由ニ作十ニ月代右衛門兄弟 いをへ行まてにて尋まて手配
立て町役へ行 ぬかれうと申ス 村上と申者へ至ル 此ニ久之丞

六月十日水ヲ渉ルトテ溺死スルヲ 村上ハ信若寺ニ葬ル 八月代
右衛門兄弟 此寺へ尋来レ共寺法トテ囚人ヲ見セサル上ヘ名主力
彦兵衛とそれ迄銃砲ノ事殺具ニ入敗ルニ付八月廿五日佐太郎
七左衛門ハ死ヶ候也
局書ハ取リ内ニ乞入入湯ニ付佐太郎ヲ殺 是寺へ逃ニ
入リ高林ノ緩ル手丁可知也 出雲守佐太郎ヲ見負立ヘ去
是ニ事故とて
始抄分立返て所ハ山ニ死ニ入ルヲ三至ニ痛ニ埋メ去ル故ニ
不知トて

寛文二寅年小笠原源六郎同名源吾へ召抱

同年 青蓮院書院[illegible]弟[illegible]合月[illegible]のとこ
[illegible]屋[illegible]へ召抱[illegible]へ行[illegible]年ノ後病死 跡[illegible]
本[illegible]目[illegible]下 大学与父ヲ[illegible]八[illegible]

同八年申千村九左衛門弟[illegible]作左衛門
[illegible]減[illegible]捨使[illegible]奉り
[illegible]九左衛門[illegible]召抱 小十郎ハ[illegible]
[illegible]へ召抱[illegible]長久

[illegible]病[illegible]滝川[illegible]へ召抱 延宝四辰父子[illegible]
[illegible]小十郎ハ[illegible]
[illegible]作左 小十郎ハ[illegible]十六[illegible]

右十兵衛[illegible]
寛文十三丑[illegible]十九[illegible]千村平右衛門へ召抱[illegible]
利へ行 [illegible]

延宝二寅年 [illegible]千郎 [illegible] 志水[illegible]へ召抱 死[illegible]
[illegible]延[illegible] 寛文十二子[illegible]

同年 氷室[illegible] 長重 一家[illegible]召抱 後ニ[illegible]一学[illegible]

●元禄二巳二月廿六日寺社奉行へ出ル 御中守殿月
番ニ付十八日樂西へ着

●同十丑年七月廿四日長崎奉行より書状入同廿八日相着ニ付
江戸へ下ル口上書ニ而唐人共ニ申附ル八月廿五日江戸へ帰り
長崎へ入ル口ヲ以ル来未正月ハ遅延ニ付
唐人ハ名ノ内ニ月名年号ヲ用ル

●宝永三戌七月二日 寺社奉行より長崎奉行へ唐人
ニ暴しニ付 永井能登守へ口ヲ以ル

●延宝二甲十二月 寺尾土佐守ヲ以ル 卯年正月 唐人西へ
口ヲ以ル 犬山ニ居ス 良忠ノ牙

○元禄二辰二月十八日 新唐船門司ヲ和歌浦右様へ口ヲ以ル
二月九日 長水甲斐守口ヲ以ル

○同八月廿二日 和歌浦豊後守ヲ以ル 月名右様へ口ヲ以ル

○同六月廿六日 松平右京ヲ以ル 海口作法ヲ以ル口ヲ以ル 同八月廿
日 免 五年ナリシカ二千石 赤中ハ作法
○同七月廿五日 代銀中ヲ以ル 乍ヲ以ル 逼塞 三千俵ニ下

赤穂ノ仕置

○享保元申ノ四月十六日毛利甚左衛門殿
仕置
要約ノ分
ヲ以上篇ヲ上ル

○切腹

●宝永五子十二月六日　酒井雅楽頭殿ヲ中小性羅田郡八　六六
当年六ツ一所ニ切腹　小性酒井左衛門進
詰合十人　名字ヲ削リ才山北条ニ流シ行　男色
郡八ヲヤハリ代ヲ以テ進ル忠ブ

●寛文二寅九月三日　町奉行天地三左衛門　日子
ハ月廿三年　寺尾土佐守ニ　切腹　康氏
三寅年ニ子ヒ方仕ニテ辛死スル　ニ子姉寡ト
居ラレシニ子ヒ中悪シ　仕合ヲ嫌ヒ不出シテ

皆吾娘ニ取ラシム若シ婦許ナルニ同代官某ヘ
出ス 味ニ此者人小形彩女ツ下方ト乾孔許紅ホツ呂島ニ及ね
小月分ナサシム
仍テ三ちつハ某氏ト三年ハ土佐ヘ小死ケ私慾トミニナル
忘水忠徳寺ヲ司ル事ノ死灵ニテ忠徳死トミテ木枕ニ見ユ
三平介錯人初太刀切損スニ年起上リシニ介錯人ガモ不騒
静ニ起立ラセテ首ヲ落ス某人死ニ人称ヘ
佞譲ニ某氏ト土佐ニ召合サスガノ武士ノ三介任シニテ札物ハ
従者ヲ出シ腹ヲ切ラシムト
三ちつ家ハ杉ノ丁ヒノ溝口若介宗
此子ニ書懐妊九男子ヲ生セハユツラントテ三ちつ召シ居号門大中ニ小石穴ノ爪ノ
鑿ヲモ三ちつ者ハ入れルニ血塊ニテ孕ニ非ス

彩女ニ家た御似セよ形ちを小孔若ちつまり日夜ヤントス
太御譲ニテ女房ニ嫁よヘ入ル
か柊の筆支ぶへ嫁よへ不入
ゑ北ふ庭加へ取索サスルモノトミ
之ハく不出又ちつ人ヲ呼寄セハ他出とて又ちつ進退窮ニ
窮リいろせんと思惟スル内ニ太介来ル
弟ヤヘ行似せ敵ニ付
吾ら会祥ノ時ガ如
ケ枕ニ詞ヲ合セ
ヨトれミニ行ト
ともかくニ死セン其故ハ眼ハ見ユレ𪜈眼珠ナシトミ僧人探
見ルニ果シテ凹シ翌日切腹 水七郎ちつ宗ニテ 天和二三ニヤ
十月四日
御吟味
ニテ相果
介借ハ彩女
田辺市ちつニ
切レズ故ニスリ
切ニス先同
太助二ニ宗
剃り仲段非アとニ太ろと芽本田勘六ヲ介錯ニ来金代リくニ
甚シケル中勘六其ニろ介錯 能切ルと
乗傍ニテ勘六刀不切ニテ
首ノ二ハリヲ爛シ漸ニ捲首ニス此ろ太介笑ケルヘトニ言ノ呼ト

ツケノクトニ 勘太郎ハ上リ独言ニテ吾刀誰ヲ斬ニ何シノ父ヲ様ス
度知ノ上リ 然ルニ今日ハ切ニ何ヲ切ト
居ルノハ 虚ヲ メリトニ、

拙者ハ 第四ノ段ハ拙者ハ新発作代ノ代ノ悪ク
四九ノ九 ケルニ罪重ク人トテ 作阿ノ支ヲ湯債ヲ
カヘル時ハ 死ノ年四九ヲ ヲ人ニヲ咽
ヲ入ニ 石塔ヲ刻メ供ス死ナルベシ
使佳田沙弥ノ月分ヲ 作阿ノ孫 ハ
ニヲ産トニ、新兵ニ子ヲ ノ上切腹

平兵衛ノ六百石 集人ニ死 平兵 子孫ヲ房ノ昔ナルヲ人テ
主ヲ殺ルニ
名ヲ隠居セスハ父子ニ石和ニ寺ニ祥僧ヲ
旅姓モ拙ナカラズ死ヲ房ヲ寺ニ附ル長ノ世ニ僧通ニ

淫具ニ行ル、釈強ク僧ヲ殺ナントス、則寺ヲ忍ビ尾引ヘ
来リ還俗シ興幸安ヲ兼ヲ 尼ノ嗜ム 妻子アリ 孫ヲ房ト
腰深ニ成ル 高キ町人ト 孫ヲ房ニ妻ト子ヲナガラ
是ヲ隠シ 金ヲ取ヲ メメニ金ヲ 町人ノ世ヲ 要ヲントト
約シ タリ女ノ父 拙者ニ見ヘテ面 ヲ面 第ヲ ヲ メントス 仍幸
安乃ヒ 娘ノ町人ヲ百計ヲ 尽シ 拙金ヲ幸信ノ 者ヲ
ヲ ニ吾父ト偽リ 拙阪ヲ疑セ 長ノ父ニテ
嗤ヲ、ヒ、ヒセキ 事ヲ知テ 拙ニ拙ス ヒト合彼町人ニ
対面ス 拙ハ逢ントヲ者ハ女ノ父ニアラス 町人 赤恥ヲ謝シ
女ノ方ノ肝イリノ町人ナリト
去ル孫ヲ房 婚礼ノ夜ヲ 金ヲ 孫ヲ房ノ少ヲ

明暦元年婚姻ノ迎ノ日ニ幸安能家九郎ノ形
書ニメ事既ニ延宝四辰(七月)擬ニ傷切腹 幸安斬罪
(拵ノ小刀ニテ丁ト一ノ手ニ切ル)

●寛文弐年十月廿四日 日ノ六時ヲ(ヒトツ)ヒトツ一人シ 吉川頁ニ大ニ貸
殖ス本銀少ノケヤキ十三ノ大木ヲ江ニ人ヘ上ス并伊藤新
四郎ノ門柱 仍テ 寛永六年ニ切腹其子九ツヲ始
六人切腹 (九ツ ミツノ片切西ノ角)
(長谷九ツ死骸ヲ取ニ来リ母ニ刑人ノ屋敷地ヲ可削トテ、削土ヲ去ノ日
金一壱ヲ与タリ)

●元禄二己巳九月廿日江戸ニテ牧仲平左衛門ノ仕付
お仮婆牧ヲ焼殺 伯母 上ヘノ下ル又ハ女ノ手負ノ
ヲ切ニ付 同十九ノ牧ヲ自殺 同廿三ノ女ヲ切腹ヲ作付

●享保二丙申ノ月九ノ 河内元三郎ノ娘ヲ柿ノ口ニ
子八ツ 稲荷ノ下ノ口ニ 抜ケ 抜ニ 柴垣ノ口ニ
十月廿五ノ父子ノ死ケノ屋ニテ 切腹 (金山ノ下ニ)

●宝永五子閏正月十八日 東屋ノ三ノ 佐兵金ヲ切腹 子孫ヲ
十三才 佐兵金ヲ 元和元年ニ切腹 去年ノ月十九ノ出生
大文ヘ元ケ十二月九ノ東屋ノ入ル (当正月廿六大江ノ(発ス九ヲ入))

●敬公の伝書作平左衛門切腹 次ノ條ニ見ユ

●寛文元辛丑十月 出羽ノ国ノ信濃守山形城中ニ荒井
ゆてらの子ヲ敵キ 通り馬ノ馬子 切腹

●寛永九申九月 江戸ニテ作左衛門 平作ト称ス
所使ニ行 殺リケルニ 寺尾左馬之助 彼是ニ又ハ及
雑言 左馬之助ヲ 又ハ切ッカ 何事ニ又ハ作左ヲモ
ヌカズトテ 又ハ ニ下条左馬ハ 山内清左衛門 上ゼ

十月五日 一カ松寺ニテ 又ハ 内子平左衛門 幼子切腹

左馬助ハ大山ヘ 左ニ子左衛門 翌日 平左衛門 出

又ハ捕ヲ左ル胸ノ顔ヲ撃トテ 時ノ狂乱ニ
在ノ中ニ ちまて 左義ハ 障子傘左ル カ顔哉
顔ヲ撃ヲ ハ決メ虚タリトイヘ 左馬ヲ憎テ カ云リ
抑亦切ク顔ヲ撃ントスル模様アリヤ

左ル味ヲ又ハ 行業ニ 第ニ 又ハ ハ ハ
ちく 掠ル 行例ノ太平ニテ アイニ ハ ハ ハ
おどけ ケ し シ ハ 慣リ 左ル胸ヲ ツカ ニ 刀
ムル人ヲ 之ハ 抑方

●ロクアウ夫ハ（二千之多人ノ）稲ヲ辛ナフ（ウ）繕ヒ（ケ）シ商人ヲ殺シ或ハ屋
御門ニ磔ホカケ悪癖ニハ近江宝八申（三月辛）改易セ（作家ニ七十六ニ見）

夫福三妻ハ久右ヤ集人ニ中有ハ安僧ニテ有ル其術
木綿ヲ若ニ初織稀ナリ大小横フ（良志集人ト又技オシ）集人ニ逢ントヲ
ヲ登城ト云大竹伝蔵ニ逢ントイヘ共不居合トテ不逢也
用達伝アウカニ逢ントヲニヨリ公ニテ舎ス集人ハ伝ノ表遣
急ニテ不対面ヒヲ伝蔵モ終ニ不舎シ伝アウカ金人
十ヲ行ヲスハ夫ハ如ク故リ又翌辛ヲ享元子ニ伝アウカ面ヒ
有シ所ニヲ云テ右ヒ伝ハ接投ニ出ル仕真ナリノ口ガ
違ヲナド、云ヘハ夫ハ気色ヲ損スヲ伝アウカ子ヲ勿ア仮父ヲ

切ヒ見ヒ進ンテ夫ハヲ切殺ス（ヒ）ヲ伝アウカ故易ヲ切腹
又ヲ伝蔵（長与天不）接易ニヲ口論ニ花シ切ラセタリトヲ
伝蔵妹姫ヒ京彩ヲ又ニ嫁シ彩ヲ三年テ後夫死スルヲヘ
伝アウカ書トナル伝アウカ接ノ長子彩ヲ処ヘ行居ス
伝蔵 大公接長ヲ云ヲ 伝は侯ヒ公ヒヲ接ヒ（四郎ニ）
集人ハ大山ト武蔵ヒ
夫ハ妻子京ニ居スル故 子ダリヤセント思イ集人ヲ接ノ
切ヒ夫ヲ金ヲ十ヲ京ヘ持ヒシテ妻子ヲスカセシニ金ニメデ
ケルニヤ何ヒヲナシ

五八まテニ切と八ツ家ニ這ヒこうゐをつかうそうこうノこと

・大学稽古所ノ仕何者ヤラ覗キ名トテい金銭を盗ム
ヒとつナリトテ切腹　子ノ門通モ切腹

・代官　年番名つ　七郎ニくう死切腹

・代官　竹内七郎つ　流刑　切腹へい死切腹

・小堂作左衛門　立腹　とい逃ゲこうゐ

多数ニくう死切腹
大公ノ体　右ノ如き喜夫嬢臭等

・い高通山中ニ　所ノことを訴ニ付切腹

・清水ノ神明ノ寺仏ハ流木ニ付ノ見ニ林原人高ニて
流ル仏ノ体ニ付寺仏ノ欲ニテ　右八変ル　右西又
市　山伏者　右捕ヘ　ニくう　ヨ月左ニ寺仏ノ盗ンテ去ル
市主　長刀ニテ追ヒ　右ノ輩ヨ　ひしと切ル　寺仏ノ
捨テ奔走ス　敵ニ　行ことたく　寺仏　盗ニ　ニテ　死ル

沖主に進ぜし者あり五石宛とて行し切捨
寛永十年分九年之ハ内九 寛永元子トミ
○ 寛永二丑二月十四日 ハ少御書院 荒川ゑ助ゟ 嫡子
同右ゑ二男同左つ 右ゑ助差扶ゟハ記ケ
三男荒川彦四郎 四男一久右衛門 荒川彦九郎
右小金原御鷹変ハ記ケ
ハ少御書院 稲垣源兵衛 嫡子同門記 二男同平八郎
右同弁之助ゟハ記ケ お伊賀家大い同分林信
濃ゟ友所ゟ右ハ同分名寄人四名 上意ゟ
代濃ゟ二ツ宛

同十五日荒川ゑ助ゟ申紙ハ少御書院 後府ゟ書付ゟ
一紙若年寄同方伝奏ゟ記ハ百姓者 若年寄ゟハ同
分名列ゟ上ゟ 宛ゟ
後府ゟ書面 右ゟ在者ゟ
上ゟ宛ゟ 長谷川伯ゟ依ゟ困つゝ 宛ゟ
伊藤勘兵衛 林采女 彦八郎つ 松田彦つ
西尾彦兵衛 彦八郎 大久保左京 水上久兵衛
稲葉丹後 名和長兵 揖斐主殿 近藤八郎つ
毛利高四郎 左近ゟ 松平治右 井上伊織
吏城彦兵衛 一久同道 寛平十ゟ 七月七ゟ

知多七郡　松平菅家　当主忠誠　弾正彰人殿
兼松又八　在郡掛川　島山豆板　中世戸川
如淋左京　天世掛川　新金銀掛　切支丹改
北新掛川　金田四郎　松平十郎　東海道
長堂彰四　田村加賀守　榊原十郎　山家掛
戸田五郎　中山勘解由

〆二百四十二人　内訳人三人
社寺集人　長谷寺七　切支丹改　高木長四郎
松平信濃守　小笠原彰右
合四十五人

出役者組頭ヘ内状ヲ以て役所ヘ石高ヲ持参ス
大橋平三　平井四郎右　府内九郎　小坂千右
撰挙彰分

同十六日役者改帳中ヘ左之通　行長
兼て松平二右衛者之通り可達　上文と同
ニ付此度公家荒川出張稲垣殿ヲ松平右衛者
ヲ伺ヒ市中ヲ廻り出役ヲ以て人数ヲ
ワケテ市中ヲ廻り申候ハ
行長
右之出役ヲ以金銀等ヲ盗ミ者申候

寛永元子十一月十六日　去年ノ悪事ニ付後府ニ召
出ル書付ニ付一紙五十人ニ付十人宛荒川
知行所ヘ呼出シ大目付秋山伯耆元口ニ付小倉
藩ノ大沢彦兵衛ヲ以テ金銀ヲ与ル
同九日右同紙ニ付金森藩ノ刀ハ取上ル　伊奈
長門ハ松平播磨守ヘ金銀ヲ与ル　吉田ノ城ヲ
十二月七日　金森藩刀子芸三人　戸田采女正　伊奈
長門子芸二人　因幡藩元ヘ金銀ヲ与ル　城ヲ
同十七日右五人ハ金森ニ付書附ヲ以テ
遠島ヲ申

寛永二丑二月十日　伊奈ニ
お陸府諸書物ハ松平伯耆ヲ以上ル
ヲ御ヲ右仕法ヲ以テ
仕新重ヲ侍ニ右仕合ハ無　但ハ依テ死罪ヲ
仕付ル

金森藩刀
芸子共
金森平内
同　長右衛門
同　長三郎

又兵衛ハ侍ニ右仕合不知ヲ仕新ニ付死罪ヲ仕
付ル依テ悴共ハ切捨ル仕付ル

[illegible]四年[illegible]大ノ月付[illegible]ノ月付[illegible]ニ[illegible]死罪
切捨

[illegible]

伊奈[illegible]
月表変
月表三[illegible]

[illegible]付[illegible]子[illegible]四[illegible]表[illegible]変ヘ永代
[illegible]秋山[illegible]修理[illegible]支所[illegible]ヨリ[illegible]
[illegible]別[illegible]ヨリ[illegible]

[illegible]八[illegible]冬十二月[illegible]日[illegible]叙[illegible]改[illegible]変

○怪異

●[illegible]荒本[illegible]芽[illegible]と[illegible]ひ[illegible]久和[illegible]仕し
[illegible]代ノ婆死ス一旦[illegible]独臥ニテ灯ナシ急悚然トシテ
床上ニ怪シ刈燭ヲ乗テ自見ルニ彼死婆掛物ノ如クニ
ナリ床壁ニアリ両手ヲ張テ如磔[illegible]大ニ[illegible]婆ヲ乗ノ
竹根ニ係五十文ヲ置今黄泉不忘ヲ来干[illegible]
掛ケニセシ[illegible]ト壁ニ切付テ形ナシ[illegible]ニ彼竹根ヲ見ルニ
集シテ数ノ如クアリ

●[illegible]中[illegible]杜[illegible]人　又ハ杜[illegible]大夫[illegible]知[illegible]捨[illegible]
別人ナリ

婦ニ女子ノ物ノ言テ戸ヲ表ノ井ヘ出ント呼ヒ走リ入テ和
白大坊主ヲ或ハ頷クトテ 扨井戸ヲ門ヲ敲ニ応ズ不同而
廿五六人挑灯ニテ出テ門ヲ同キ怪ヲ扨井戸ニ集シテ
言ノ如シ十文字ノ徒ニテ寇之ニ彼物語ニ従テ来ル軽キ
如毛也附テ見ルニ白惟子ヲ竿ニ懸テ忘レテ歩シ
風吹テ側ノ竹ノ末ヘ吹カケ有リシト

● 梦ニ見ル 扨甲乙ノ背ノ筋骨ノ上リニ一尺ヲ九ツ
カリフスベアリ恰如狐尾也是ヲ迫シテ老ニ手ニ挟ム時
時其先ヲ血滴ル是持病也 或来化ケ人ニ門内ニ大
坊主跪踞シテ有リ 如尼ヲ婦ヲ入昼シ月新

窓ヨリ見シハ彼坊主ヲ葬ル葬場ヲ踏鈍ヘテ入リ葬ヲ
扶テ窓ノ内ヘ入順更シテ去ル

● 夢ニ火字 尼ヲ犯ス 死スル時雷電大雨甚

● 夢ニ八百姓ノ若ニテ月下ニ女ト逃ヲ八百姓
不実ノ咄スル人シ故ニ裏ス 早ク来者シ

● 若ヲ子ノ住居ノ内門前ノ小子急橋上ニ入急橋下ニ
入テ消ユ外ノ者ハ凡テ不見 住僧 タワメト居ヒ居シニ
ヲ見テ子死ス

● 甲刃ニテ樵人蛇ノ殺セシ雑子ヲ拾テ入リ烹テ婦ヲ
取クルニ竈ノ上ヨリ蛇落テ鍋中ヘ入ル工ヘ騒テ捨ツリ

大公方沢四郎ニ大ナル野猫出ツ枝国彩分切殺シテ又
ハ行ノ時大ナル野猫出ツ　大公方ヨリ自殺ニテ害殺シ
玉フ

貞松院様ニ黒猫アリ人ニ慣ル遠ク追掛ルニ怪黄
昏ニ死猫飛リ来リ尾ノ端ナリニ細長クナリ眼ヲ指テ
入ル人ニ大ニ怪ミ遠ク追失フ

松平三左ツ女ノ体ニ白猫ツ和ク水戸ノ上ニ三ツ毛ノ
猫捨テ来ル丁度ニ捨ヒ膝上ニ乗ル
内ニ女房ノ上ニカヒク女角生ル出タリ大ニ驚テ捨ル
ツ後松平海外ニ居ル夜お通ル筋ヲ通ル粗若無ウ

夜ノ大ナル樫木忽地ニ伏ニ忽又元ノ如ク立ツ刀ノ柄砕ケ
ヨト握リ眺テ叱ストイヘ元事ナキユヘ飯ル建仲寺ノ後ニ明キ
屋敷ヲ四壁ヲ穿ツ門ニ人居ユ立ツ居ル深夜ハ
必盗人ナラン壁ノ穴ヲ入テ入ル十七八ノ女ニ顔如玉ニ
立ツ怪テ欲間近ツリニ従テ近ク近ニ来ル場ヲ忽
門ニ入ル手長大坊主出タリ引退ク坊主追ツメラレヒイ
ヒイト呼ブ腕ニ取ル立ツ建仲寺ノ場ヲ忽地内ニ入ル
家ニ帰ル忽大汗ニ成ル門驚テ同ク立ツ具ニ故ヲ
告ケ立ツ大変驚ス死ス屋ツノ家ヲ大芝根ノ
所宅ニ出養生シテ幸ヒ命ヲ

存生ヲ度シ自ラ言之真矣偽矣作樂病ノスル処ナ

●左山作ル　蛇ノ光ヲ見ル　云云

●作ル事ヲ聞ク　情ヲ知ル　云蛇ヲ殺ス悪ム五月貴ノ立物ノ作物ノ

蛇ヲ父ヲ知リ　足リ居ニテ行ト自ノ誘シ　実ニ人ニ蛇ヲ殺ス

悪ム

●雲田ヲ橋田程ヲ蛇用ノ弟毒ノ多メニ悩　法花寺

祈ル懸上ニ竹筒ヲ作ル六日ニ至リ怪物竹筒ヘ入ル孔

成就シ封ス　死時毒ニ汲水セシカ忽絶入ニ死

●因幡ニ云フ　移母死ル雷電狂ル大雨　夏ニ人皆恐怖ス

俗説ニ移母ノ床ニ蛇ヲ蟄リ蓬阪朱賬ニテ床ノ上ヨリ

面ヲ出シ落ヘユカウ〳〵と呼ル或人怪異と云ハ虚誕し

只ノ雷ノ甚キユヘニカクヤウニヤウ〳〵ヒ清水寺ヲ初ヘ灯篭

情ヲ丸ニ行ニヲ人ニ称スル程ニ云岳院ヘ推至リ雷電

猶不止人ニ膳ヲ寒シ皆刀ノ柄ヲ握リテ居ニ寂蓉出

ルト人ニノ気忽安クナルトニ云岳院ニ近キ所ニ鳴石塔

アリテ幼時石ヲ取テ撃ニ響如金鐘也人ニアヒリ石

ニテ撃損欠ケルユヘ外ノ石塔ト替ユ在上ニテハ此婆ノ石塔

トいフ事ハ移母ノ娘ノ石塔トニ

寂蓉ハ云岳院ノ開山ニ始甲州ノ教安寺ニ住シ附従

百化多ニ曾テ山ニ井ヲ不自由ニ或時寂蓉杖ニテ

突テモ茲ニ井アラハヨケレトト忽飛泉湯今ニスクク
お道院松四郎招待ニテ三岳院ノ住持トナル此僧ナリ
死人ノイロノ常ヲシ行四号四スケノ方白狗子ノ常ヲ出シ
カヘシム遠出ノ時常ノ帳房クシテアシトテ人ニトラセタリ

●蒙古ノ古井村ニ遊テ馬尾化為蜂ヲ見ル尾未タ
鍼ト化セス長ノ馬ノ尾ニテアリ

●市祖父住西口雇ノ所ニテ山ノ芋ノ纏タル竹ヲ川スキ
杖ニセントス山ノ芋半ウナギニ成リタリ

●伯父柿ツ房井ニ住ス市出シ飯リニ僕カモ南ノ路ヨリ四
飯リ有レトトス柿ツモソレハ路遠シ何ノカクモヤト叱テ
僕カモイ迫ニ来ル中ノ芝寺ノ壁下ニ小坊主一人三テモ
一見テ玄蕃懐ストモ柿ツ多ヒ左ナラハ可ヌトテ
行ニ果ニテ十二三ナル小坊主ヲ問ヒ不答柿ツ門ニ
シトスルニ高力強シ柿ツモ強カユヘ門ニ吾家近キ
ユヘツレ飯リ寺柳ニケレモ不言且杖下痛メルテイモ
ナシ何トモシカタナク夜明テ可紀明トテ厩ニ強ク縛リ
置市ハテ足モイヅクヘ行ケン行方ナシ
或ハ寺柳ノ門只一声アイヅトモ故ニ在ラシテアイヅト
僧トモ

上ケ板ヲ山ケタニ三度上ケ板ノ家主ノ門ニ下ル世風ニ倒ヘ
行絶入シテアリ人ヲ集テ呼活子細ヲ問ニ何者ヤラン髪
ヲ切ト覚ヘテ手拭ハ石覆ヒトモ見シテ髪根ヨリフツ
ツリト切リ鞭鞘カモ石損シテ側ニ有ヒ自身ハ勿論
外人モケ我ニハ切ガタシトヲイ　恭公門意ニテ河村
兵蔵行テ見ル　兵蔵品毋ヲ詰ヲリ
元禄二三月江戸町ノ世中ノ市多クヲ又ハ髪ヲ切ヒヒ
世ヲ恐ル所ヲ世ヲ恐ル世ヲ世ヲ髪ヲ切ル
川村ヒ藤ト女モ髪切ル　五月ヲリ

薄田右ヒ一分ヒ手ヲ力又太郎ヲ右ヘ絵ノ弟ノ居ヲリ我
江ヲ人ヘ門使ニ来ル所ヲ行ヒ出ヲ多ヲリ我ヒ出ル口恐モ不
来ヒヒヒ従ヒ出シ湯漬食ヲ喫ス其衆所在ヒ失ヒ我ヒ出
山日ニ絵ヲ罪アリテ成敗ニスト云
兵庫ニ付テ成敗ニアントスル故ニ兵庫命ヒ乞我ヒヒ
ヒ方ヲ絵ヘ中生スニ才ノ辺半ニ其日ニ宮元ヲ己ニ
斬ヲリヒヒ方ヲ大ニ怪ヒ彼ヲ人ヒ尋ヒ有ヒ見セシ公ニ
在ルヒ十ヲ其寝タル所ヲ濡テアリヒヒ
大石ヒ兵庫ヒ打係太郎ヒ云右一旦火事ニヒリ木谷
路ニヒ兵庫ニ見ヒ下アリヲ今代ヒ兵庫花押ヲ在人

雷ノ守とて重宝トス

● 玩進十月廿四日伊予所ニテ左吻ニ大瘤アル人ヲ見ル
殆ど面をかくし又手幼キ時東都ニテ加比大工ヲ見ル

● 宝永七年九月五十八吉田六ちう書思子ヲ産ス水ハかり
飲十日程ヲテ死

● 貞享四年四月初ハ平村ノ社ノ椿木ニ人ノ脚美餅
生ス又ハ樹木ニ温飩生ス

● 宝永六年十二月所ノ石仏ノ目弘法新ニスル流説

● 元禄十五年六月ハ所ノ人ニテ人多ク失ス多ク集人
小麦ハ山ノ内樊西ノ方ヘ安僧ニテ行ト見ヘシカ不分ト云

● 寛文十戌年八月廿七日ノ夜南北ニ長サ平高拾釜ヘ石ノ形
山ハ彩分ノ代ニ成ルヘシ山ハ高ク山ハ高ク家稲竹
ヲ生ス石ヲ水ニ見ル

● 吳ノ山ハ洛西宝ちう七十余ニ石麻ヲ以大ナル榧ヤ柏
石ヲ生ス中ニ高サ五尺程ノ人ス

● 吉所七ヶ所ノ山ハ大ノ院寺市宮八幡ノ内西ノ方
ハ小山伏ノ宿ノ隣子ノ明ノ三番ヲ示リ解ル人ニ
其猫し家ノ集係ノ山ハ石ノ習ニ猫ヲ忘レテ行ニ夜ヲ主ノ
業ヲ失ハサリ

●尾刈村ノ住人右ノ者ヲ平村ノ沈ヲ掌ル沈ノ長ニ
発スラレ月ニ三度死ス　蛇沈ト称ス

●百十石ノ右恒派人ニ名ヲ与ヘラル稽ヲ撒ヘ住ス盛林巡回ノ
稽ヲ一元ノ名ニ四遠宮ニ彫刻ス四宗指ノ書ヲ
十石ノ日蓮宗ニ与ル　神ヲ誹リ大言悪口ニテ何ヲ宗指
ヲ人ロヲ且因ニ　伊勢ノ文ノ所事ヲ数ニ悪口ス
十余日ヲ経テ十石ノ寺院名ニテ何某ノ家ハ行シ木
稽ノ歯打テ石田ノ月ヲ立ル上ヘコロビ打ル沈碑ニテ
死ス

●仙七金作二石ノ二形ナリ

●水谷九郎男根ヲ沈ニ貫ナレ俗ニカヘル股ト云

●千村平石モ日影　永ス九年ハ平沈ハ中リナルモノ也ト
平石姫平六ト云　蔓ノ命先上田主水　一万八千石　サヲ聚リケレ合文
ナキ二ヘ安蔓ヘ帰ヘス

●木芳谷ニ平尾カ石ト病ヲ沈ヲ以テ今茶石生

●大公奥ノ茶屋ヲ可　男根至少ニ皮ニ付ル云ヘ根名
動宮母ノ二　宦若名リ

付ケ給フ書ニ猛ニ名を釈迦宗元（宗元ハ宗元ノ門ニテ器用ナリト）
の弟子ト称シ京ニ入リ洛ニ祇園寺ニテ宗元カ弟子と
称ス 長浪人ニテ名聞ヤ如何 経師ヤ法師ヤ成ル成ル
書ニ如ク学問ヲ怪ク人ト云ヘ人皆知ル 種ノ段ニ
至リ揚ル事ヲ 世間ノ人ワワヲ是金鶏（コトリ）ヘゲテ飛
サノ所ニ中ル也

● 茶道人小山市郎兵衛ニ風ニ草鞋ヲ履ル僧一人無眠
ヘテ云ヒシ上ノ山ニ出ヒシ云ヒ何ヲ入ル人ト不審ス
方ニ孫伝ヲ思ニ呼ヒ乞ヒ孫伝ヲ乞ヒ病ナルヘシ茶方
阿ヒシ伝教ヲ云ヒ 紀ニテ学ニ忙ヒ頂史ヲ云ヒ

法師の市し風ヲ履る事ヲ聞て途ニ病ヒ悩ヒ
● 寛永九子 吳ノ祇園ノ犬ニ婚して子ヲ生ス其形ヲ
見ナリと祇園ノ斬罪
● 敬ヲ猿狩ノ人体 逢ヒ、老人猿ヲ抱ヒ立テ云ヒ
犬ニ比ヒ云ヒ又重ル比ヒ仏ヲ知リ 光明真言
歩御ス 彼者呼テ申ノ日ニ猿狩ヒ主ノ況又光罪物モト
イロ〳〵 置リ去ル 翌年所逝ヒ
天五土ノ書付ハ山本ヒ伝ニ四記ケトヒ

○薩戸松ノ四郎行戸田又兵衛ニ出大力也兵庫ハ能ク前ニ乳ノ
人ノ来ル事ヲ聞テ待ケリ 作ニ成リ出ル兵庫ニ出撮テ之ヲ掴ミ抽ス
肩砕ケテ死スハ乳人ニ会ク 兵庫義ス刈ル付喚声
三四町ニ徹ス或人曰ク 不喚シテ死ス

○寛永年中ニ知久郡濱門村ニ長蓋ト云浄土宗ノ尼ノ者
有ク 等月文章ニ達ス元田人南村ヲ立テ頼ミ或ハ

横ノ清
昆末寺
荒尾ノ西
方寺ハ西
方寺ノ末
寺也長
主カ任
スル寺之世
人長蔵サ灵
ヲ肴之ニ
八西方寺ヲ
拙西方寺長
甚ク墓ニ
白テ十念ヲ
授ニ八則
灵怨ヲ止

年貢未済ノ時モ大井村ニ大井三安ト云者ニ長蔵
金ヲかりて百姓へ出ニ調之事故百姓中として長蔵カ借
賀ヲ云ゆへ三安金子返スヘシト長蔵ニ云長蔵百姓中と
出合といへとも不償ニ長蔵卯ニ三安へ行様ニ申セ共不
承ノ剥悪口ス長蔵不快ニ三安ヲ二寸刀刺ス刺レテ奥深リ
迯出ル所見咎ル陥ル 一説ニ長蔵如何ニ成ニ三安来リ悪口云ニヨリ刺ス刺レテ逃去ルトモ云
三安ハ大井作犯と称され所見ヲ大坂へ訴フ作犯判
非人ニ逢ス乎比深門村ノ百三河西尾へ行く門へ入り
田中六郎領知也二へ貰ヘ申来ん所金拂有之百姓
雷同して長蔵の秘訣ヲ許ニ三安ヲ切ル時ニ
斬罪ス長蔵事情ノ刑ニ行く手持長蔵形と現ニ其室ヲ
云ふけ事ス百姓ノ家ニ入一家不残殺シ其家有之従れ候と

又殺ス其後周家の忠功ニより雑役ヲ勤ル雑役ヲ勤し
久之百年ニ至レ長蔵傘と称ス深見取ニ宗雑役ヲ行其事として
又殺ス村モ灵甚不絶所法度ホッ引し長蔵和尚と賜ス
今ニ深門村田ノ中ニ塚アリ塚ノ上石塔有之長蔵和尚と書ス
瘧の病と云今称ルニ参詣し有之と云
当主長蔵如何様作後任ハ参り不許百度
ニ及しり見ル秘訣ニ死刑ニ逢然灵モ崇ヲ面リ乃ち
ゆへ八幡ニ参見と見ハ今尚秘怨トモ云

○深河春日村生同所用州御色相手間隔高家所在之村
庄屋何某ノ庄屋ノうちニ老狐元居スルコト久シ昔ヲ出ル所と云
亦之名二ツ程何也
庄屋子孫太郎と中ちくして出ニ諸芸又入ル時ハ

[illegible]て形像の如くなり
或僧高野に天照耀千閑と云大文字と書孫大郎と云ふ
者と戸四十郎重つ　元山院及び宿坊の内に元来の此文字ありしが
師子之助八百之丞
人面を重ねて東十郎左衛門の家に駆り垣壁ありて毀つて
置れ〳〵して安別寺し　或年孫大郎波年〳〵多き者
の程一里半余して往返に倦れ疲日暮れ
居りトして師匠、服ヲ乞ふ師匠も文ヲ見て答ス
日暮れトハ思ひ人〳〵と云そなり附て密スこと人内に称波年出
ふ事なしと云ふ迫れ〳〵行しらて夫分を見
先ひしれ隠れとて門に孫大郎隠り居ん師匠を呼んと定メテ
半途より帰れと云と父の返事ヲ扶出ス事を給ふ孫大郎
[illegible]家に帰り可度安ス容アリテ返事ハ〳〵此文者ノ家に

とて[illegible]ふり而拉父と者ト形案アリ二度見て父皆眉て
孫大郎思ふ所ハ〳〵服ヲ乞ひして隠れんと人皆大に不審ス
或孫大郎の居住ヲ師匠さんと者ヲ九に砂急ヲ
ふ事ハ隠れこと上りて天井へ忍しと付須臾して隠れこと九
一滴もこぼれ　如何が奇怪皆彼老狐ハ人知しのくよ
ふ者ノ子吉兵衛ヲ呼〳〵ハ孫大郎ノ家に隠ス
或孫代者此妖狐ヲ笑と思ふ孫大郎に呼ミメ者ヲ人に遣フ形
隠ヲ見て切ラトス狐さとして隠れ代者も隠ることカヲ九に
重処と〳〵孫の偽形も報ヲ者ヲ見
ハ〳〵狐に化言ニテ西方の[illegible]
或僧高野の花源と者子孫を貧之金ヲ為ん[illegible]と云者ハ人ハ
者に金ヲ[illegible]し人ノ和ヲ盗テ有る〳〵盗和ヲ[illegible]いて何と

[illegible]人百ニ不変高生ノ子ヲ産ミ[illegible]
[illegible]

[illegible]日[illegible]人百姓ノ奴ニ云ハク主人ノ稲ヲ盗ミテ賣ル行ミシ賣
者奥ニ知ラズ主人ニ告ケ人奴大ニ怒レル過ヲ改ントイヘ[illegible]
[illegible]
夏享年中狐[illegible]父子ニ化シテ稲荷ニ[illegible]
狐八百年[illegible]ル性[illegible]ハリテ死スル表ヲ弘役ニ明日京ヘ
可奏也野狐ヲ[illegible]ヒテ[illegible]ヲ[illegible]
器ヨリ元ノ側ニ金ヲ三乗ニ入[illegible]
[illegible]
[illegible]父子ヘ[illegible]ヲ[illegible]老狐[illegible]

如不能ヒ、又ヲ[illegible]ヲ告セシ[illegible]
[illegible]狗ニ噛殺ルヒ、春ヲ村ヲ[illegible]老狐ヲ
[illegible]ヲ能ク人形ヲ犯シ多ク人ヲ[illegible]

○正徳二辰十一月二日　文昭院様四葬礼　舎利降
　寄星出千月頭

○同三巳七月十九日ニ　内傳七ツ[illegible]ニ数柱

○同五月ニ　春日ノ神影ノ宮ニ移リ玉フトテ

○同　武州叢村　新伊勢太神宮ノ寺

○同閏五月廿六日　飛騨ノ国ニ火柱現ス

○寛文八申八月五日於同所ニ無事ノ之ニ 附松平市正殿
某同心某 ニ田辺又某 父ナリ ト 海保某 豊前守殿 ト
足軽ニ行 某母ちころ共ニ 竹ホヲ代テ杖トス ニ家僕某孫
某之某菊門 脇之ニ入 某ニ射付 某ハ 同月
十二日死ス 某某モ死ス 某ハ某方ニ某之某ん
ハ某知行某ハ 七八歳 細某又十石 某式部ニ某某
以某某之 同年十月 此死ニ 某所上ル
尾又某 此時二歳ニ

○淫醜 附 男色 嫉死 切女

●元禄四未七月於浅草某田某之獨某七某
刺女二日メテ死

●同十一月六日 太左衛門某 大伝寺行某 刺殺毒ニテ退
伴某村上若某女ヲ要ル若ニテ 同月十三日ニ左衛門ニ来ル

●同六酉十月三日 姫某松平某中山某 女某ノヲ殺ス
井中ヘ入死

●同九子正月二日 水世六ニテ某仕ノ女ヲ手討ニス

●同同月六日 某中間 殺ニ某某ニテ某仕女ヲ自

死

● 同十年丑 大山柏森千手院達道殺ス尼理貞於携刀
生瀬ニ

● 同十七申 三月廿七日 加賀ノ手ノ門外ニテ女切ラル

● 同十月十二日 長崎ノ山内孝蔵門外ニテ女キ切ラル 日町ノ
材木ノ番所仕ノ女ナリ

● 同十四巳九月 豊後ノ者ノ家ニ雷書 長伸元而来ル
門内ニテ仕ノ女ヲ殺シ己モ死ス

● 同十月 光明寺子供純 日町 墓ヲ拾ヒ中ヲ
書ニ孕セ共ニ出奔 三刃 衣ニテ 共ニ又死

● 宝永五子十月廿二 彦兵衛ヲ殺ス 光長院墓ヲ ヲ
通シテ 名古屋ヘ 殺ス

● 主馬 魯母ニ美恵 美山ヲ密通

● 同四寅四月比 樊田茂大夫ノ家ヲ 師季通 書方仕ヲ通シ
出奔ス 山澄等ニ命シ尋サセ ヲ通リ

● 同八月廿五日夜 北本屋入女 十四ノ サナ 千分 小僧アガリ 巳
奔ル 樊田丹中ニテ 捕ヘ来リ 十九 千分ハ屋入郭田ニテ誅ス

● 中浜長兵衛書 母ハ天外 寺ニテ 義色 殺サル
通シ後ニ 加ヤ長ニ通ス 遥臭本町ノ方ヘ

● 同十月九巳 彩月之山 女義色逐電 女久

●宝永三戌四月一日京鳥部山ニテ久右衛門貴左平妻
子源助四歳ノ女モノヲ殺シ自殺セントスルヲ捕ヘ籠ヘ入

●同六丑小笠原播山若ツ書見奇変ヒトツ 此ヒトハ京行今ハ浪人ナリ
四十歳 元年太郎 若ツ父ニテ草屋ヒトツ書ヲ殺シ己モ死

●同六巳三月十又日 曲岡仁左ツ播ニテ女切ラル

●同十月十日申之刻 ヒトツ北ノ播ニテ女切ラル 泊谷忠ツ下仕

同十五日沢井十左ツ差ヒ入獄 任鼻首

●元禄十六未正月 若原紋左ツ 縊母ニ通ス 小笠原ツ 紋左ツ
妹三ノ丸中ヲ微行スミヽ 再 若原又ヒツニ嫁ス

●同八月廿六日出羽ノ芝示ニテ如林修理若ツ 若原ヒツ殺
女ノ腹上ヘ上リ自殺

●宝永二巳九月十九日 加川六ツ 一人 入獄十月廿二日遠敬
死事ニ付十月二日ニ 正信院南家 東月院寂若 浅浄寺 素門
永安寺末子宗隆寺ヒニ 遠敬

●元禄二巳正月十四日大山ニテ 鈴木平門妻自殺 平門 天地
林平 妻ノ兄 若原ヒツ三ヒツ子 此三人立退ヒツヒツモ集人正ノ
改易

●同六月 宝屋久兵衛 林若ツ姉 蜜通ノヒツ厠ニテ自殺 損
八月廿九日終ニ死ス

●同三年十二月十日 沢左ツ 文ヒツ子三九郎ヒツ 萩生左ツ子ヒツ

幸金指出男人ノ云ヒシ所ノ今年ハ
ヒトリ立遠ヲ人ニ知ラレ無之別條

●同四未四月六日西ヶ丘右仕ノ母ヲ張人（右衛門通ニ歩行ノ者ナリシカ捷ニ西ヶ丘来テ同年六月二日ニ突殺ス）

●同十巳二月中旬行方不知老（右衛九郎ノ父）右衛九郎ノ娘左仕男ニ通スルヲ刺殺称自殺　男ハ松坂ニテ捕ヘ来リ誅ス

●大公ノ所部小性ニ少年ヲ求ムルニ年長ノ助九郎　美色射人ノ寵愛シ一旦所ニ従ヒ奉ラズ故ニ其所詣ヲ探リ玉フニ同小性村尾左ツヲ兄合ニス仍之左ツ元服シ作付ハ書院番ナル然レトモ志不離ハ老中等数矣尺スレトモ不少或時所

仕ノ之左ツ勤番ナリシニ不憚口ヲ吸ス仍テ左人逼塞ス
作付ケレトモ猶所情詰ヲ以老中等諫言屢也死時右人怨
改心由ヲ付所ノ処ニ七月七日　所第ヒ年久ク世話ニ
飯リ恵ニ左ツ行刺違ヘ死ス時ニ正保四丁亥歳也助九郎
吉勝十六歳也号天誉玄秋（京岳院ニ石碑アリ）　書院ニ十日ニ葬
ラレシトイヘ然レトモ[illegible]各処ニ火葬スルニ烟一ツニ逢トモ
ヒトヲ[illegible]ノ[illegible]

●[illegible]小氏ノ家源太郎（臣若号ヲ信）　姓名ヲ或ハ百姓ヲ養卷ニシ
殺ス　両妾同月ニ男子ヲ生ス共ニ鈍ニメ貪婬也　内一人家督

女三人淫奔不可言 一女おろく郡 ほうこの村 接長 と云百人
ナリシニ三綱ニ亂蕩シ姦通シ出奔ス原本たつ氏通りニイタシ
義絶スル旨人々ニ住ル力妻 一女 美堂と通シ是モ出奔ス
是モ不分 反ニ此女婦ノ父、乗り込醫師ニ元長居ニ嫁ス
一女ハ加治屋伯ニ嫁ス

● 桑公い屋敷与何七郎と通ス原義男又ノ上ニ原義又長右
ヲ ニナル 七郎力ノ相ア
● 三ヶ月程ニ成ル九月ニ妻ニ初テ交ル其後跡也後ニハ血漏出ス
人ニ早ク死ス

● 美女八幡ノ向ニ片眼ノ珠数屋ノ荒屋ニ女郎居 町奉行川尾
平馬ニ訴ヘシ吟味ノ上一昼夜ニ二十三文ト中分妻悦
服ル然ルニ此定ニテ不足 先々ノ数ヲ取越シ用ユ 男死時五十ヲ
● 荒川十郎ヲ元祿十六カ丑 未春死 碁ヲ好ム囲碁ノ内集掛ヨリ入指ニ
淫奔ヲ付テ頼嗅之其臭消スシハ又前ノ如ク其順更ニ不能
忘淫 荒嬢可笑
● 原田原右衛門 泥酔ス 粗文字ヲ知ル 妹ヲ仕市平ニ通ス
と市外原四大夫家
二月ハ山男ヲ出ントス市平方ヲ乞
出奔シ妹ハ和ニ紙屋市平ハ 小女ノ子ヲ仕ル川原三交ハ
ムツリと出緒アルニ大夫ヲ求ニ市平ヲ乞 山本 則市平ヲ

約リ深ク請ハク謀ス妹ヲモ乃出シツレ来リ奥ノ物置ヘ入ダラ
恒ヨリ深ク切殺スモ恨ミ無ト門ニアルユヘ仕方ナク立退

寛文ノ末近国ノ初ノ事ニヤ

● 御家内情正輝母ハ隼人正妻ノ石佐ニ因縁生レ後ニ石ノ大竹
武彦兵衛 附テ木曽路ヲ上ル宿々ニテ通シ孕トナリ隼人正人
口ヲ思ヒ指置ル而何トナク武彦兵衛新田ノ放小知村ヘ隠居セム
死母ニ隼人正不対面 卒去前ニ一度逢

● 本寿院様始北郡ノ田沼彦兵衛ニ通シ出奔後ニ共ニ既ル常ニ連
子ニ上リ居ヲ視テ亂ル又ハ文ナンドヲ通シ荒淫也 竹成ノ年田
沼下リシニ郡家ノ者トテ寿院ヘ内ヘ呼ビ料理ニト

● 内彦兵衛母ヘ美薫忍フ父ノ石ヲ切殺ス

● 寛文十戌 拝内現ヲ 北木曽水ノ谷 冬ノ母ヲ子ダラシ合人
町ニテ切倒シ死ルト思ヒ不知所ニテ帰リシガ甦リ一、言ユヘ現ヲ
立退 家族ヘ内密リシ 永寿寺大光寺ヘ出シ墓前ニテ自
殺セシム

● 明暦二申ノ秋五十人小比ノ取文ヲ石ニノニテ相生孫ヲ
喧嘩ヲトテ騒キ中ヤノ輩居出タルニ文ヲ不見不審リ捜求シ
厠ノ中ニ死ノ祟リ隠シ居 文ヲ家ハ石黄文ヲ史ヲ

母子共ニ石ニ
ノ石ヲ切殺シ
石ニ住ス

子ニ成ラント

● 浦戸七兵衛 イ節ニ何事ニカ妻ハ行掛紋大夫姉ニ 実ハ竹掛四ヲ母

夫ノ才覚ヲ分犯ス離別後大変ヲ嫁ス（美色ト）而定ノ分
小百姓ニナリシカ陸奥ヨリテ犯トテ
● 寄奉院様御ヨリ紅ク真文字ニ能クアソバサル御計立ヲ爰
宗元 野蒸御孕御産後逝ニ玉フ 宗元ハ殺ス
● 仕ヲ為ル伝兵衛ヲ始ル松又男色ヲ好ム一旦廃ノ業ヲ出シニ九願ノ
尿ヲ荷フ者アルヲ見テ発起シ入滝ス（外ニテ編百銭ヲ与フ 浅ス）（ヒカ六十ヲ）
此童不覚痛重テ又来リ大門ニ居ル牛兵分他出ス持ナト居ニシ
出ル那サヽ先日ノ如キ百ゴトヲナサレヽセヌカトテ
● 宝永二酉十一月十一日ヲ限リ小性役伊藤某妹ヲ電蔵人
タヨ都妻トナル

● 元禄元辰 四月十七 相応寺門際ニ女切ラル
● 宝永七寅九月七日東吉月ヲ塔ノ北ニテ塔ヲ伐高ニ
女ヲ殺シ上ニ乗自殺
● 集人三月分役所記録ヲ（竹天ノ男） 高田忌ニ年姫ノ供ニ
誰ヤラン初ニ此ル死人三人ト書ル高ニ書カケ丈ヨリ前
歩ニ長ク長ク分ト記シ金トテ
通ス（共ニ七尾天神ノ溢具露気トテ、針ヲ立ルトテ奇ク
町）
天和元辰 高ヲ高ヲ（二間引ニ出） 丈アリ
新井氏ノ高ヲ高ヲ（二間引ニ出） 高門伝蔵ノ下ヘ依ル代ヲ
記ヲ切テ小林（大田丈ヲ、立退集人晋ヨリカリワケ有テ出ル ノ伝高下 杉ノ久国寺ヘ出切腹）（平内報）

●市性ノ方ニ千亭江ヲ[illegible]テ　[illegible]柳ト云
世ニ通ス文ノ[illegible]ヤリナンド[illegible]千下美者ニイタセリ或ハ美者ニ
気ニ達ヒ[illegible]出サレ接ヒノ餘リ本夫（柳カ夫カ）ニシテ[illegible]ニ
落シ文スノ[illegible]金[illegible]柳ハ斬罪　三十亭ハ切腹
三十亭ヲアリ本夫ヲ兄ノ離トメ書丁辺ニテ誅シテ主迯
[illegible]　[illegible]侯方所[illegible]方ヲ[illegible]
千下　[illegible]是彦（彩与）ト兄弟ハ
父
本夫ハ[illegible]彦[illegible]人ニ千下[illegible]モ石[illegible]落シ文モ
セサニ石幸ニシテ云殺

●竹尾[illegible]妻子ノ書ニ通リ通スノ妻自殺
●[illegible]年下書ハ[illegible]門十与女ニ平下父彩与夜ニ自殺ト
[illegible]平下ニハ斬退ケ[illegible]ニ[illegible]酒絶倫ノ書別ス
彩与又[illegible]ニ[illegible]ニ[illegible]ノ[illegible]ノ書ヒテ通ス

●[illegible]院　[illegible]文与母　其妹祥光院　[illegible]
○正徳二壬辰七月廿八日尾氏ノ母[illegible]
[illegible]子[illegible]　[illegible]　相死
○同四年五月晦日[illegible]

やの女ヲ片傷芝原ニテ殺シ自モ病ノ長詠セラル

○同三月七日夜若狭ノ浪人日蓮ノ母ヲ女と刺殺シテ自殺

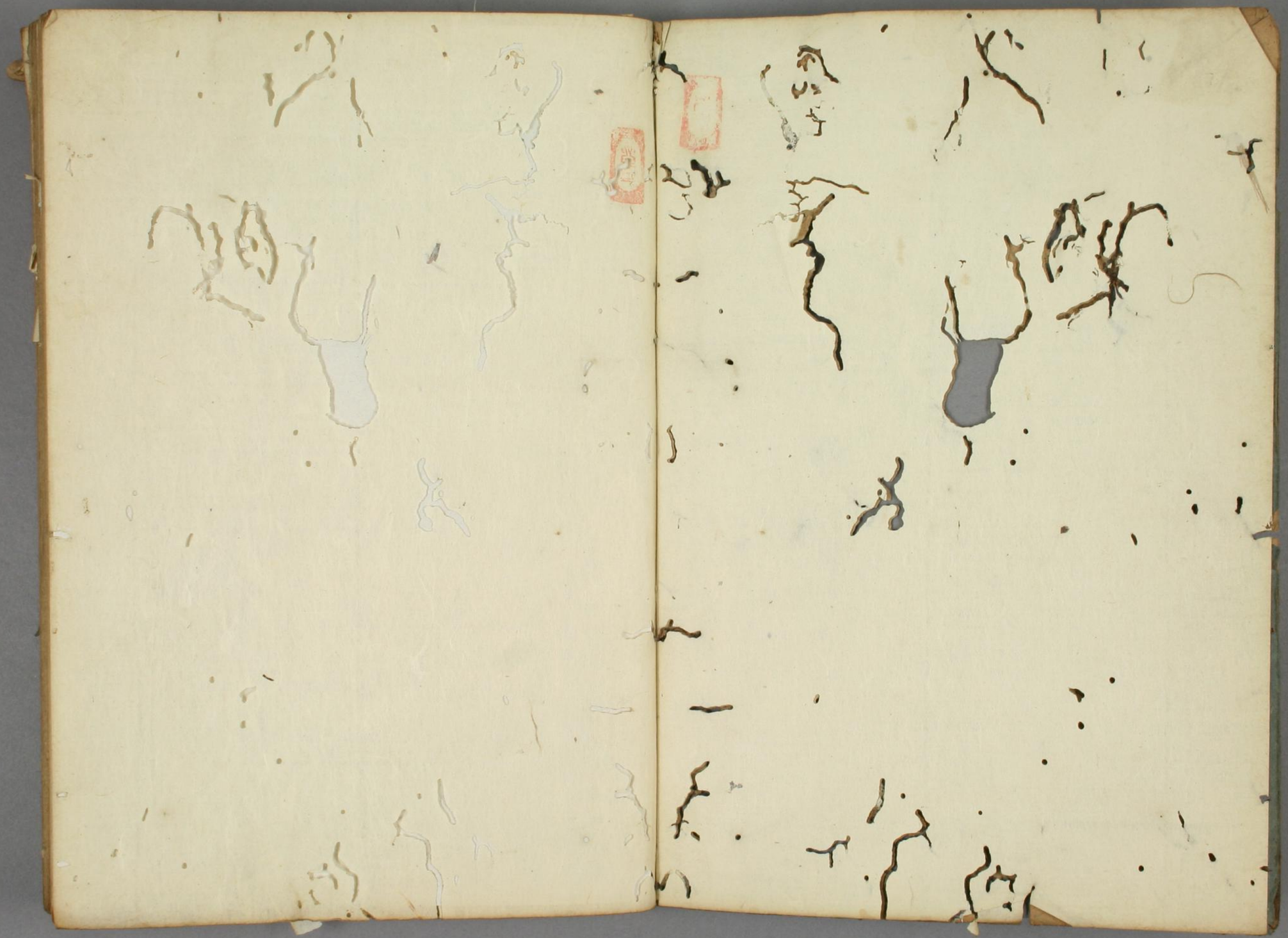
○同月五日江戸ノ多路等姫路ニ付ル仕置

○同五未九月十九ノ晩北条平七郎尾崎ノ女 屋敷ノ下仕女ニナヲ政妻ノ門ニテ刺殺シ自モ死

○享保元申二月五ノ夜ノ頃ノ於沼田ノ高宅女ヲ切殺自殺

○同四月四日長崎ノ丸ノ遊女 女心中死

○同八月廿三ノ吉原ノ丁正教寺ノ同宿と女と心中

○同二月廿六日大津ノ牧馬 牧馬ノ養子 牧馬ノ養女ト心中

同八月五日栄尾村七ツ寺ノ仏留女 二本ニテカ子トヲト心中